

第2話「爆対決 黄金の魔術師サラー！」

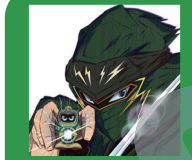
コミックス1巻「謎のビーダー魔術師登場!!」「魔球! ゴールデンビーダマン!!」に相当
 脚本:あすか 正太 絵コンテ:金津賀 M 演出:日下直義



サラー戦第2ラウンドは「ビーダマンバトルラー」。
 1発のビー玉を何度も撃ち、海岸にあるビーダマンの石像の中に先にビー玉を入れた方が勝ち。ビー玉を見失えば失格。タマゴが崖から落ちてしまふ。変化球が撃てるサラーの曲がれず崖から落ちてしまふ。変化球が撃てるサラーのゴールドビーダマンはカーショットでコーナーを曲がり、バックスピンドルでコーナー直前に停止することが出来るため無敵。劣勢のタマゴは一旦上空に向かってビー玉を撃ち左手でフレキをかけたまま崖から一緒に崖から飛び降りる。これによりビー玉を見失わずにコースをショートカットできる。雨で地面がすべりコントロールを失ったサラーのビー玉も、崖から落ちてしまふ。
 「嫌いなんだ! ボクはビーダマンなんか、嫌いなんだ!! 負けたくない! 負けたくない!!」
 これまでビーダマンを復讐の道具と思いついてきたサラーが叫び、ビー玉を追って崖から飛び降りる。タマゴとサラーが同時に崖に着地。先に起き上がったサラーがフィニッシュを決めると思いきや、足を使ったしめ撃ちで追い抜きタマゴの勝利。この時のガンマの「タマゴ必殺のキャンションショットや!!」と「じつせりフ」がアニメ版でのキャンションの名称の初出となる。



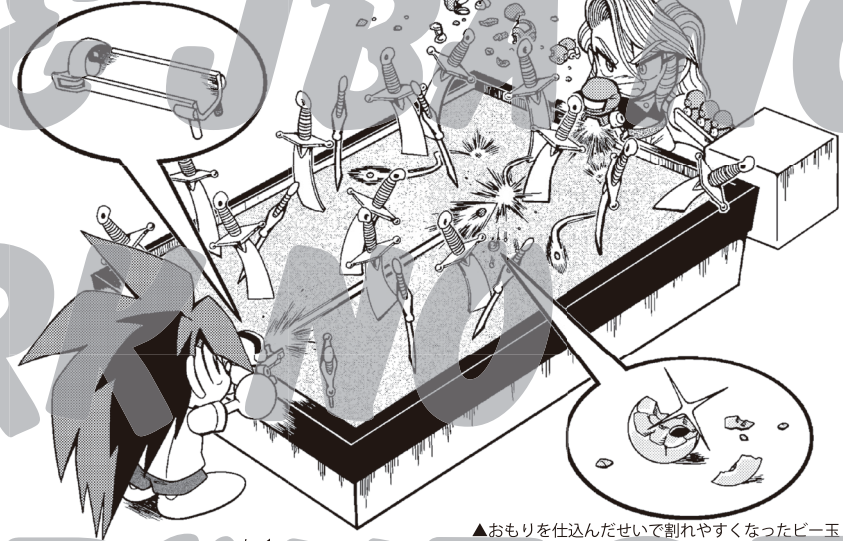
▶ゴールドビーダマンは作中で「スーパービーダマンゴールド」とも呼ばれる。漫画版では「ゴールデンビーダマン」であり、その玩具版は「ゴールデンボンパーマン」なので紛らわしい。リアルの時系列ではスタッグスフィックス発売後に、逆算的にゴールドビーダマンがデザインされ、商品化されなかったため本書掲載用にスタッグスフィックスを改造して作成した。金メッキ調に塗装し、周囲の物体を反射するだけでなく、変化球も(一応)撃てる。



サラー初登場!! ある事がきっかけで心が歪んでしまったサラーはアラブ石油王の息子。ちなみにニンジャポンはリアルなサウジアラビアの王族の前でお仕事をした事がある。心の中で遊びを思い出した(笑)サラーが自尊心を取り戻すための「ハンティング」という歪んだ遊び。絶対に勝てるバトルで、城に招かれたビーダーをコテンパンにする。石油王ならではの大量のビーダマンを使い捨てる連射や、ビー玉におもりを仕込んだ「スネークショット」。ガンマのアドバイス&アシストでタマゴは窮地を切り抜ける。ここで初めてカスタムパーツのロングバレルが登場する。リアルの遊び方では床にビーダマンを置いて遊ぶ競技がほとんどだったので、ロングバレルは狙いをつける他にも転倒防止でバランスを取るために使用することもあった。アニメでは空中撃ちというバトル設定と、もともと狙い撃ちの腕前のあるキャラクター達には不要なのだろう。あまり登場しないパーツ。さてさて、遊びは終わりました!と本気を出したサラーはビーダマンバトルラーで挑んでくる。断崖の坂道を1発のビー玉を打ちながらゴールを目指す。サラーのアニメオリジナル機「ゴールドビーダマン」が登場する。原作での機体は「ゴールデンビーダマン」というボンパーマン型。ゴールド/ゴールデンビーダマンの特徴はスピンドル、つまりカーブショット・ドライブショット・バックスピンドルがかけられる。…という事なんだけど、リアルでは弾道があんまり曲がらない威力も無い機体だった。でも他とは違う金ピカのメッキのボディとトリッキーなコンセプトに心躍った! ただ一つ、後頭部のトリガーさえ折れなければ……。アニメの話に戻るが、カーブやバックスピンドルで難なくコースを進むサラーにタマゴは苦戦し、一発逆転のためにビー玉と一緒に崖を飛び降りるという無茶をする。しかも崖に指を引っ掛けて、落下速度を殺しながら! 熱い! スタボロのタマゴの姿に、心が動き始めるサラー。雨に濡れた地面でスピンドルがかからず、サラーのビー玉も崖を落ちてゆく。サラーにも熱きビー玉が芽生える。ビーダーの誇りを取り戻し、自らも崖を飛び降りて本気のバトルに臨む! 最後の1ショット、両足を使ったしめ撃ち=キャンションショットでタマゴの勝利。本当のバトルを通じて友情とビー魂に目覚めるサラー。アニメ版は原作よりシリアスな心理描写が全体的に多く、観ていて熱くなる。



▼ロングバレル



▶サラーが「戦闘庭園」と呼ぶフィールド。ビー玉1発ごとにビーダマンを使い捨てる連射「マシンガンスネークショット」は、漫画版では机の上に投げるビーダマンを並べているが、アニメ版では、ベルトコンベアで次々と運ばれる。
 ▶バトルガーデン



▲サラーが使用したブルービーダマン。作中唯一のモブ機。作画上はもっと灰色がかかった、暗い青色で描かれている。



▲サラーが使用したブルービーダマン。作中唯一のモブ機。作画上はもっと灰色がかかった、暗い青色で描かれている。



▲サラーが使用したブルービーダマン。作中唯一のモブ機。作画上はもっと灰色がかかった、暗い青色で描かれている。

「両手撃ちのオレが連射するためにはビーダマン自体を変えるしかないと思ったんだ。そして考えたオレの理想のビーダマン。これがスーパービーダマンホワイトなんだ!」
 (作中でのホワイトビーダマンの別の呼び名) おそろく土方である玉四が夜中に改造したのだと推測している。ガンマが握っていたホワイトビーダマンが赤色の花束にすり替わった。
 (何モンヤ!)「黄金の魔術師、ウイザード!!」。漫画版のサラーは先ほどまでいた四車線道路の真ん中を、車をささげり近寄って来て、ビー玉の魔術師を名乗る。アニメ版では安全に配慮したか横断歩道橋を降りて来る。挨拶代わりに5個のビー玉を上に投げ、ホワイトビーダマンの1発でビリヤードのように5個のビー玉を順に弾き、最後に弾いたビー玉で洋館の鐘を鳴らす。サラーの城でバトルをすることになり、リムジンに乗るタマゴとガンマ。既に車に乗った後だが、おそろくおそろく。知らん人についていたらあかなくて、おかに言われたいんか?」
 リアルな小学五年生らしいセリフ。タマゴとサラーの初バトルは、障害物の隙間から相手のゴールに先にビー玉を入れた方が勝ち。ビー玉におもりを仕込んだ変則的弾道、スネークショットが有利になるよう剣の配置が偏っている。さらにビーダマンを平気で使い捨てるサラーに怒ったガンマは、タマゴにロングバレルを貸す。ロングバレルにより命中精度が向上し、わずかな剣の隙間を狙ったパワーショットでおもりを仕込んだビー玉を砕き、ゴールを決める。
 怒り狂ったサラーはガンマに剣で斬りかろうとするが、執事のセバスチャンに抑え込まれる。サラーが部屋を去った後、セバスチャンはサラーが精神的トラウマを抱えている理由を語る。アニメ版のサラーは小学校を転校はしているが、容姿によるいじめには遭っていない。そのため漫画版の「男らしくないで! 顔も女みたいやし!」というサラーの容姿を揶揄するセリフが無い。セバスチャンにより、伊集院との仲違いについて第2話時点、伏線が張られている。日本に留学に来られたおほっちゃんまたは小学校に通われました。おほっちゃんまたは字力優秀でスポーツでも抜群の才能を示され、瞬間に小学者になったのでございます。とこころまは他人とどう付き合えばいいのかわからなくなりました。勝てばいいの負けばいいのかわからない。おほっちゃんまたはスポーツがお嫌いになってしまいました。そんな時に出会われたのがビーダマンでございました。おほっちゃんまたは、それはもう、夢中になりましたのでございます。
 ▲サラーが使用したブルービーダマン。作中唯一のモブ機。作画上はもっと灰色がかかった、暗い青色で描かれている。
 ▲サラーが使用したブルービーダマン。作中唯一のモブ機。作画上はもっと灰色がかかった、暗い青色で描かれている。
 ▲サラーが使用したブルービーダマン。作中唯一のモブ機。作画上はもっと灰色がかかった、暗い青色で描かれている。

